

高齢者の肺炎球菌感染症予防接種について

<肺炎球菌感染症とは>

肺炎球菌感染症とは、肺炎球菌という細菌によって引き起こされる病気です。この菌は、主に気道の分泌物に含まれ、唾液などを通じて飛沫感染します。日本人の約3～5%の高齢者では鼻や喉の奥に菌が常在しているとされます。これらの菌が何らかのきっかけで進展することで、気管支炎、肺炎、敗血症などの重い合併症を起こすことがあります。

<肺炎球菌ワクチンの効果と副反応>

肺炎球菌には93種類の血清型があり、平成26年10月からの定期接種で使用される「ニューモバックス NP（23価肺炎球菌莢膜ポリサッカライドワクチン）」は、そのうちの23種類の血清型に効果があります。また、この23種類の血清型は成人の重症の肺炎球菌感染症の原因の約7割を占めるとい研究結果があります。定期予防接種では、このワクチンを1回接種します。インフルエンザワクチンのように毎年接種する必要はありません。

副反応としては局所の疼痛、熱感、腫脹、発赤が5%以上認められています。筋肉痛、倦怠感、違和感、悪寒、頭痛、発熱もありますが、いずれも経過で2～3日で消失します。

<予防接種を受けることができない人>

1. 明らかに発熱のある人（37.5℃以上の人）
2. 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人
3. 予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことが明らかな人
4. すでに肺炎球菌ワクチンを接種したことがある人（定期予防接種の対象とはなりません
ので、過去の接種歴を必ず確認して、かかりつけ医にご相談下さい。）

<予防接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない人>

1. 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などの人
2. 予防接種で接種後2日以内に発熱のみられた人
3. 過去にけいれんを起こしたことがある人
4. 過去に免疫不全の診断をされたことがある人及び近親者で先天性免疫不全症の人がいる人

<予防接種を受けた後の注意事項>

1. 予防接種を受けた後30分間は、急な副反応が起こることがあります。医師(医療機関)とすぐに連絡を取れるようにしておきましょう。
2. 副反応の多くは24時間以内に出現しますので、特にこの間は体調に注意しましょう。接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けましょう。
3. 入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこすらないでください。
4. 接種当日はいつもの生活をしてかまいませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。
5. 医療機関で本日の予防接種の記録を、高齢者予防接種手帳や健康手帳に記入してもらい、他の医療機関を受診した時やインフルエンザ等他の予防接種を受ける時に提示できるように保管しておきましょう。

光市健康増進課（光市光井二丁目2番1号） TEL：0833-74-3007